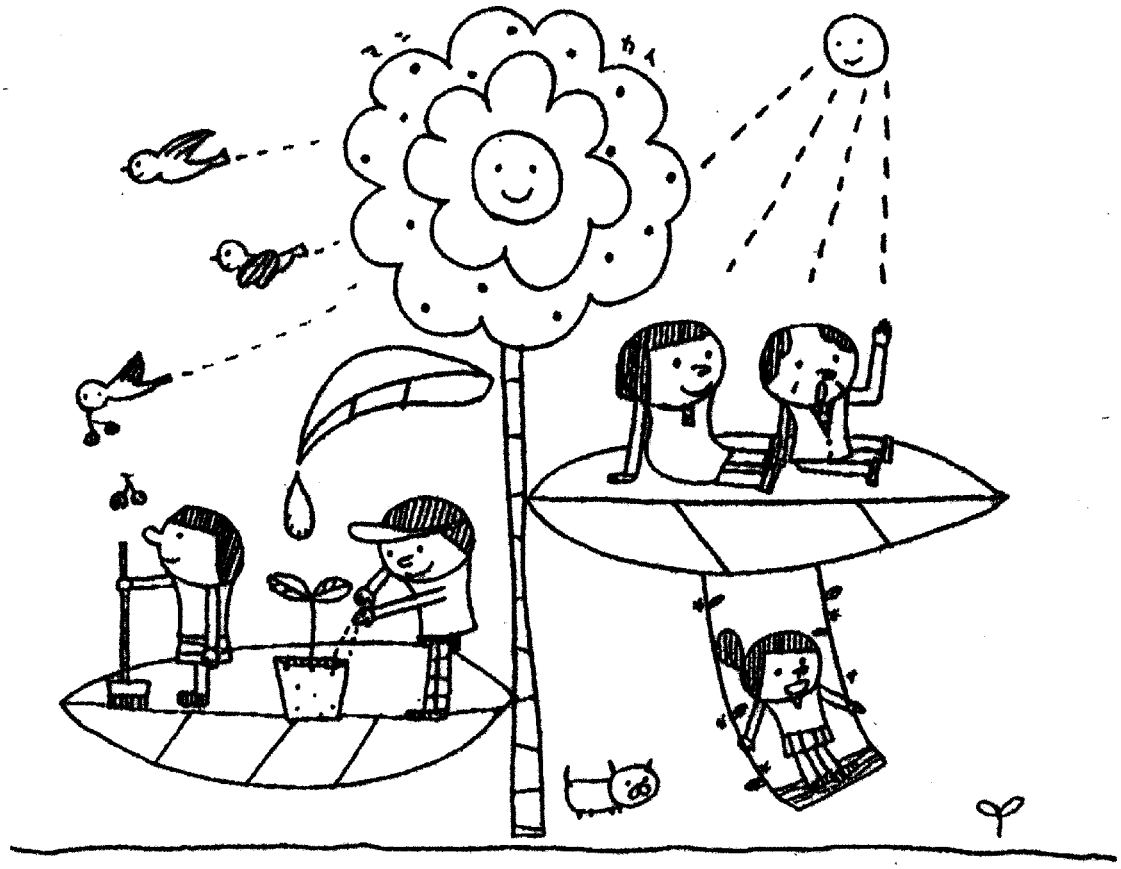
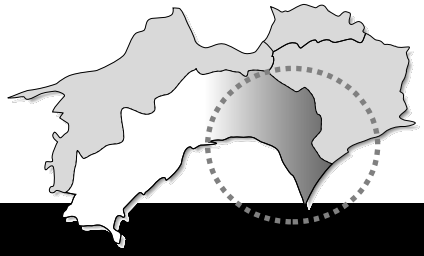
地域を磨いて花を咲かそう！

高知東海岸100物語

高知県東部観光ビジョン



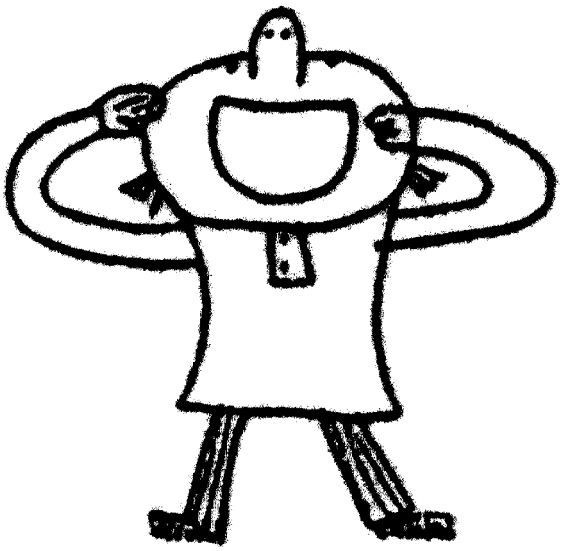
高知県商工労働部観光振興課



この報告書は、高知県東部地域（行政区域として芸西村から東洋町まで、広義にはその周辺地域を含む）が観光振興に取り組むための指針です。平成16年6月から12月にかけて、東部地域在住の住民が手弁当で集まった委員会（6回開催）の中で討議した意見を取りまとめたものです。観光や交流を東部地域の新しい活力として育てることで、地域外からの来訪者を受け入れる体制をつくり、東部地域内で連携して、さらなる発展を目指します。

報告書の構成は、計画編と資料編からなり、計画編は第一章「高知県東部地域の特徴」、第二章「観光ビジョンの計画と施策」、第三章「付帯事業-地域の顔づくり計画」でまとめています。ビジョンの全体像を知るには計画編を、内容の詳細を見るなら資料編までをご一読ください。

やってみんかえ！



高知県東部観光ビジョン策定の主旨

昭和の中頃、農林業が盛んだった農山村も、
漁業や物流で賑わった海辺の町も、
今は昔の思い出だ。
行政にも力があり、将来を夢見たまちづくりにいそしみ、
どの顔も意欲に溢れていたのが昨日のことのようだ。
しかし、それらが衰退すると人口流出や過疎化が急速にやってきた。

どうしたことなんだろう。
産業興しや雇用創出が望まれるが、従来のやり方では通用しない。
以前のやり方や手法がまったく役立たない時代になってしまった。
国際化、情報化、地域間競争の波が押し寄せ、
高知県の田舎町にいてさえも世界の動きが瞬時に伝わる。
すごく便利となった反面、なにかがおかしい。
まちや集落から子どもの声が聞こえなくなったのだ。

さて、どうするのか!?
人やモノの交流で、地域に活力が産まれないだろうか!?

観光を軸にした地域づくり。
訪れた人をもてなし、喜んでもらえるように
地域の資源を磨くことが、新しい地域の活力づくりにつながっていく。

そんな取り組みを始めようと計画したのが
「高知県東部の観光ビジョン」である。
再び、にぎわいを町に集落に取り戻そうではないですか。

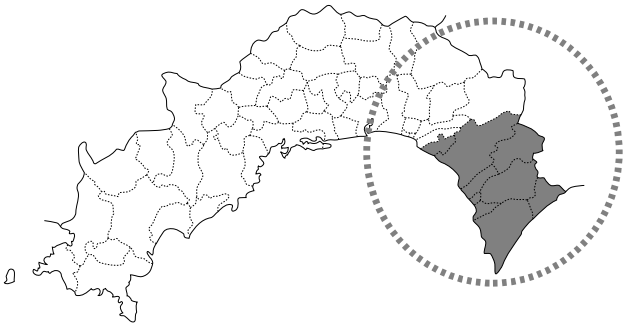
高知県東部観光ビジョンの目標

目標

グリーンツーリズム等による体験型観光・交流の創出と地域の活性化
（交流人口の拡大による地域の活力づくり）

対象エリア

対象エリアは高知県東部地域（2市4町3村）とし、土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線の沿線地域や徳島県南部地域との連携も視野に入れる

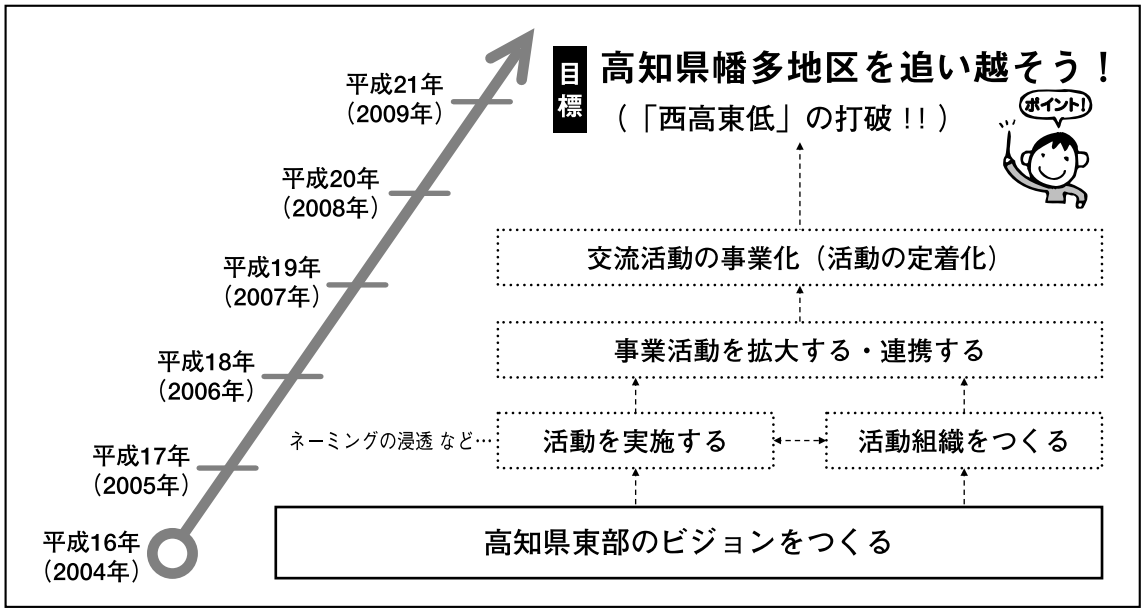


具体的計画

●地域資源を磨き、約100カ所の交流システムを創出する（装置づくり、人づくり、見どころづくり）
●東部地域の魅力を発信する（地域のイメージをつくる）
●活動の実施に向けた組織づくりやネットワークづくりに取り組む

目標年次

平成16（2004）年から平成21（2009）年までの5年間



目　次

●高知県東部観光ビジョン策定の主旨 …… 3
●高知県東部観光ビジョンの目標 …… 4

第1章 高知県東部地域の将来予測と魅力

［1］「地域が潰れる」地域の危機 …… 9
［2］新しい地域づくりは観光・交流だ …… 10
［3］高知県東部の特徴 …… 11

第2章 観光ビジョンづくりの計画と施策

［1］観光ビジョンの効果とフレーム …… 19
［2］観光ビジョンづくりの5カ条 …… 21
第1条　住民が豊かに暮らせる地域であること …… 22
第2条　来訪者が喜ぶ地域となること …… 23
第3条　観光資源を磨くこと …… 24
第4条　高知県東部を広く知らせること …… 25
第5条　広域的な連携・ネットワークをつくること …… 26
［3］来訪者へのアクションプラン …… 27
［4］観光・交流100選の基準 …… 28
［5］地域住民のアクション …… 38

●来訪者（ビジネス、観光、行楽等）の中で観光・交流者の位置づけ …… 39

第3章 付帯事業-地域の顔づくり実施プラン

［1］東部地域のイメージをつくろう …… 41
［2］地域イメージをつくるための視点 …… 42
［3］高知県東部の地域ブランドづくり …… 43
［4］ブランドマークの展開 …… 45

●高知県東部の未来に向けて …… 53

資料 資料編

1. 高知県東部観光ビジョン策定の目的・体制・行程 …… 55
- 1. 目的 …… 55
- 2. 体制（高知県東部観光ビジョン策定委員会の設置） …… 56
- 3. 行程 …… 57

2. 高知県東部の姿 …… 58
- 1. 自然条件
  - ・位置 …… 58
  - ・気候 …… 58
  - ・土地利用 …… 58
- 2. 社会条件
  - ・高知県東部の人口 …… 59
  - ・高知県東部の産業 …… 61
  - ・高知県東部の交通 …… 63
- 3. 高知県東部の資源 …… 67

3. 観光動向をみると（第1回委員会資料より抜粋） …… 72
- 1. 高知県における観光客数の現況
  - ・交通機関別 …… 72
  - ・日帰り・宿泊別 …… 73
- 2. 高知県東部と高知県全域および幡多地区の比較 …… 74
- 3. 旅の動機を喚起させる地域イメージ …… 76
- 4. 旅の動機は変わりつつあります
  - ・集客の魅力とは …… 77
  - ・新しい旅行のスタイル …… 77
  - ・最近人気の観光スタイル …… 78

4. 地域を元気にする体験型観光・交流（第2回委員会資料より抜粋） …… 79
- 1. 交流とは …… 79
- 2. 地域資源を体感感覚でまとめると …… 82
- 3. 地域資源を商品にしよう …… 83
- 4. イベントも仕組んでみましょう …… 85
- 5. 施設づくりも考えてみましょう …… 87
- 6. 広域で結ぶとツアーになります …… 88
- 7. 来訪者に喜んでもらおう …… 89

5. 観光ビジョン策定委員会の協議概要 …… 90
- 1. 第1回委員会議事録 …… 90
- 2. 第2回委員会議事録 …… 93
- 3. 第3回委員会議事録 …… 96
- 4. 第4回委員会議事録 …… 100
- 5. 徳島県視察 …… 103
- 6. 交通・宿泊機関との意見交換会 …… 109

みんなで考えた「高知県東部観光ビジョン」

高知県東部観光ビジョン策定委員会風景（第4回委員会）

第1章

高知県東部地域の将来予測と魅力

2030年、人口が半減!?

都市への人口流出、核家族化、そして90年代初頭に日本を襲った不況の嵐は、今なお地域に暗い影を落としている。

経済がなかなか活性化しないという閉塞感の中、人口はあいかわらず減少を続け、子ども達や地域の後継者がいなくなり、昔から息づいてきた伝統的な文化や風習は途絶えようとしている。地域と密接に関わりをもってきた学校も統廃合が進み、身近に教育を受ける場を失いつつある。

2000年、高知県東部には約6万3千人の定住者がいた。しかしこれが2030年になると、高齢・少子化・流出で人口が3万4千人程度になり、ほぼ半減すると予測されている。これで地域は今の暮らしを維持できるのだろうか。モノを捕ったり作っても、肝心の買ってくれる人がいなければ経営は行き詰まり、店舗は閉鎖を余儀なくされる。

こんな悪循環が続けば、地域は消滅してしまう。

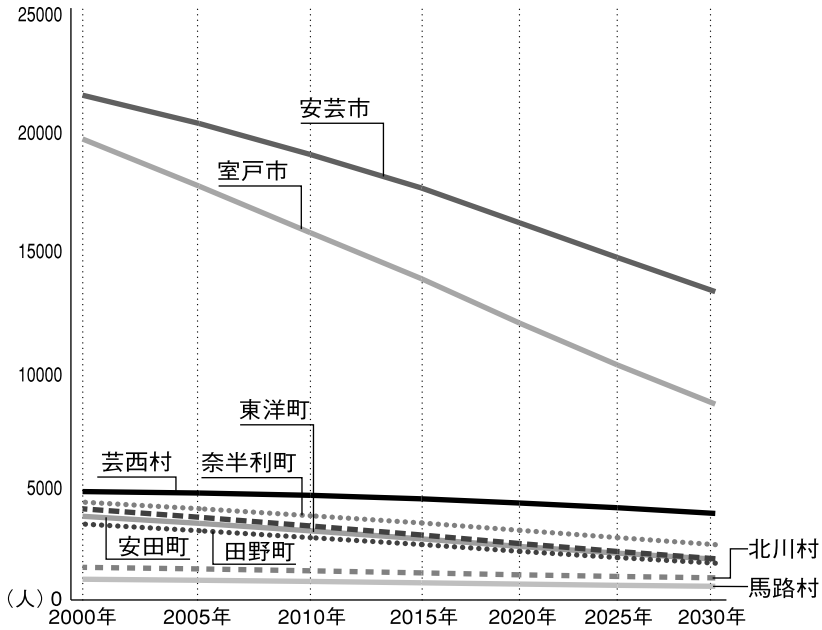
今すぐ、何か手を打つ必要がある。観光にしても未整備なため、来訪者の滞在時間は短い。しかし、ノスタルジックなニオイが残り、観光資源は数多くある。そこで、人を呼び込み、金を落とさせる装置や仕組みづくりが急がれる。

25年後を考えたら恐ろしくないですか!?

■各市町村における将来人口の推移

市町村	2000年 人口	2030年 人口	2030年 増減率
高知県全域	813,949	696,117	-14.5
高知県東部	62,566	34,038	-45.6
東洋町	3,744	1,636	-56.3
室戸市	19,472	8,273	-57.5
奈半利町	4,027	2,231	-44.6
田野町	3,315	1,662	-49.9
安田町	3,535	1,725	-51.2
北川村	1,591	1,147	-27.9
馬路村	1,195	897	-24.9
安芸市	21,321	13,024	-38.9
芸西村	4,366	3,443	-21.1

［単位／人口:人、増減率:％
資料／財団法人日本統計協会「市町村の将来人口」（平成14年3月）］



「何もない」が魅力になる!

時代とともに社会が変わり、価値観も変わった。

経済や地域は停滞し、東部地域も人口減少、産業衰退が進んだが、一方で人々が自然の美しさ、田舎の良さに魅力を感じ始めた。

都市機能が少なく、不便な田舎・地域にスポットがあたり始めたのだ。とはいえ、金塊も磨かなければ良さが光らない。東部地域の魅力を磨き、来訪者が喜ぶ体制づくりが重要だ。

便利さが何もないを逆手にとって、地域の魅力となる野山、漁村での体験型滞在(グリーンツーリズム)を発信しよう。

最近はこんな旅も増えてきました

旅の楽しみ方は多様化しています。それに伴い、個人旅行が増え、旅先での時間を自由に楽しむ傾向が強くなっています。

● 癒し・リフレッシュの旅

・ぼけー…としてみたい、のんびり時間を過ごしたい
・温泉で日頃の疲れを癒したい
・自然に親しみたい
・動物と触れ合いたい　…など

● 趣味を楽しむ旅

・写真が好きな人(アマチュアカメラマンなど)
・画家
・音楽が好きな人
・鉄道ファン
・アウトドア派の人
　- 登山やウォーキングなど、歩くのが好きな人
　- 海や川で泳ぐ(遊ぶ)のが好きな人
　- キャンプを楽しみたい人　…など
・食べるのが好きな人
・酒好きの人　…など

● 地域の文化を学ぶ・楽しむ旅

・伝統芸能や歴史に興味がある
・田舎体験をしてみたい
・手づくり志向(手仕事体験)
・遍路体験をしてみたい
・地元グループの活動に興味がある
・修学旅行、遠足　…など

→ **団体旅行から個人旅行へ・購買から時間消費へ**

自然の中に息づく産業や暮らし

太平洋に大きく突き出て、V字型を形成している高知県東部。南端の室戸岬を中心に河岸段丘が隆起した独特の地形を持っている。温暖な気候は冬、雪が降ることは少なく、逆に春から秋にかけては国内でも有数の多雨地帯として知られている。

平野は少なく、海岸部では遠洋の捕鯨やマグロ漁などで賑わった。一方、山間部では昔から林業が盛んで、特に馬路村の魚梁瀬杉は杉の日本3大美林の一つに数えられていた。現在この一帯は柚子の産地として知られている。また、近年では室戸沖の深海からわき上がる深層水を取水し、宿泊施設の風呂から特産品まで幅広く利用。高知県の新しい産業として注目されている。

文化や風習に目を向けると、四国霊場八十八カ所のうち、二十四番札所最御崎寺から二十七番札所神峯寺までがあり、昔からこれらの霊場を訪ね歩く遍路の姿が見受けられ、お接待という独特の風習も今なお地域の人々の間で残っている。

近年では、印象派の画家、クロード・モネの庭を再現したモネの庭マルモッタンや、室戸岬新港で麻布大学がアニマルテラピーの一環として行っているイルカの飼育、地場産品の販売やレストランを併設した海の駅とろむ等が人気のスポットとなっている。

自然	・太平洋　・台風　・鯨　・だるま太陽　・川　・山、森林 ・四季が分かる　・室戸岬
癒し	・ノスタルジック　・のんびりできる　・ぼけっとできる ・田舎　・手仕事　・温泉
歴史	・お遍路さん　・歴史が継承されている
食	・ナス　・柚子　・エコ農産物　・魚（海、川） ・地酒　・海洋深層水
人	・人情がある　・親しみやすい
交通	・ごめん・なはり線　・大阪高知特急フェリー　・国道55号線

今も残る懐かしい暮らしを活かそう

一見すると、何もないと思われるような地域でも、よく見てみるとそれぞれに個性がある。高知県東部も、それぞれの地域の特色が浮き出てきた。それは、少し前まで活気のあった町並みの名残りや、開発が遅れたために、手つかずで残った自然の素晴らしさなどである。高知県西部を流れる四万十川のような核的な魅力はないが、賑わった産業が満ち満ちた世界があった。

捕鯨・マグロ漁・漁師町

室戸市や東洋町はかつて遠く南氷洋までクジラを追った捕鯨や、マグロ漁の町として賑わっていた。この東部が発祥の土佐鰹船団は、全国にその名が知れ渡っていた。この漁業華やかな頃の名残りが町や港のあちこちに残っている。

また、昔はクジラを捕っていたのが、現在はホエールウオッチングとして観る観光に姿を変え、今後、数多くの観光客で賑わうことが期待されている。

林業を中心に流通で賑わう

林業が華やかだった時代、森林鉄道が地域内を縦横に走り、木材だけでなく、人、生活物資まで運んでいた。馬路村や北川村で切り出された木材は、田野町や奈半利町に運ばれ、ここから京阪神に向かっての出荷など、物流で賑わっていた。また、この運搬のため、中芸地域では山間部から海岸線まで、森林鉄道が網の目のように敷設され、木材だけでなく日常生活物資や人まで運ぶ地域の貴重な交通手段であった。今はこの森林鉄道も廃線となり、地域のあちこちに軌道跡が残り、木材に変わって柚子が特産品として全国に知れ渡っている。

歴史や生活文化が残る

安芸国虎や、土佐藩家老五藤家の治めた城下町として発達した安芸市は、高知県東部の中核都市である。そのため、土居廓中といった武家屋敷の街並みも残るが、商業の集積地として賑わっていた町である。さらに、岩崎弥太郎の生家、安芸出身の作曲家、弘田龍太郎の曲碑などもあり歴史と文化にふれあえる。この安芸市は昭和40年代から、阪神タイガースのキャンプ地となり、今ではタイガースタウンとして、全国に知られるようになった。

遍路の鈴の音が響く

高知県は四国霊場の修行の道場として名高く、特にこの東部地域は徳島県の最後の札所薬王寺から、高知県最初の札所最御崎寺まで距離があること、安田町の神峯寺までの道は遍路ころがしと呼ばれるなど、高知県ならではの特徴を持った遍路道が続いている。また、沿線では今もお接待という独特の風習が残っている。近年、この遍路は「癒しの道」として見直され、毎年20万人の人が四国霊場を巡っている。

新しい観光スタイルの息吹

高知県東部の魅力は、何もノスタルジックなものばかりではない。自然の特性を活かしたサーフスポットをはじめ、海を楽しめるマリンスポーツ。そして、この海に新たな資源を求め、全国に先駆けて積極的な開発を行っている室戸海洋深層水。これまで高知県内にはない、新しい形態の観光施設として注目を集めているモネの庭マルモッタン。そして、豊かな自然の中に棲息する生き物の、活用法を期待されているサンゴやイルカ。高知県東部にも新しいスタイルの観光や交流のカタチが芽吹きはじめている。

マリンレジャーで賑わう

東部地域の東の端、東洋町生見海岸は全国でも有数のサーフスポットとして京阪神を中心に各地からサーファーが訪れ、全国大会や世界大会も開催される。一方、室戸岬新港では国立室戸少年自然の家が、ヨットやカヌーの体験スクールを行っている。また、西の夜須町でもマリンスポーツの体験観光に力を入れている。

深海からわき上がる神秘の水

室戸岬沖の深海からわき上がる海洋深層水。ミネラル分を豊富に含み、アトピーや皮膚炎にも効果があると言われ、研究開発が進むと同時に、高知県内企業、また県外の大手資本が参入して商品開発に取り組み、高知県東部の新しい特産品として注目を集めている。また、高知県東部の宿泊施設では、この海洋深層水を利用した風呂を施設に加え、地域性と健康性をアピールしている。

東部の村に異国文化を展開

睡蓮の絵で有名なフランス、印象派の画家、クロード･モネの庭を模したモネの庭マルモッタンがオープン以来、高知県東部の新しい観光スポットとして、多くの入場者で賑わっている。田舎にありながら、細部にまでこだわった演出や、豊富な商品構成が入場者を満足させる仕掛けとなっている。また、季節や時期ごとにさまざまなイベントも企画。リピーターの確保にも力を入れている。

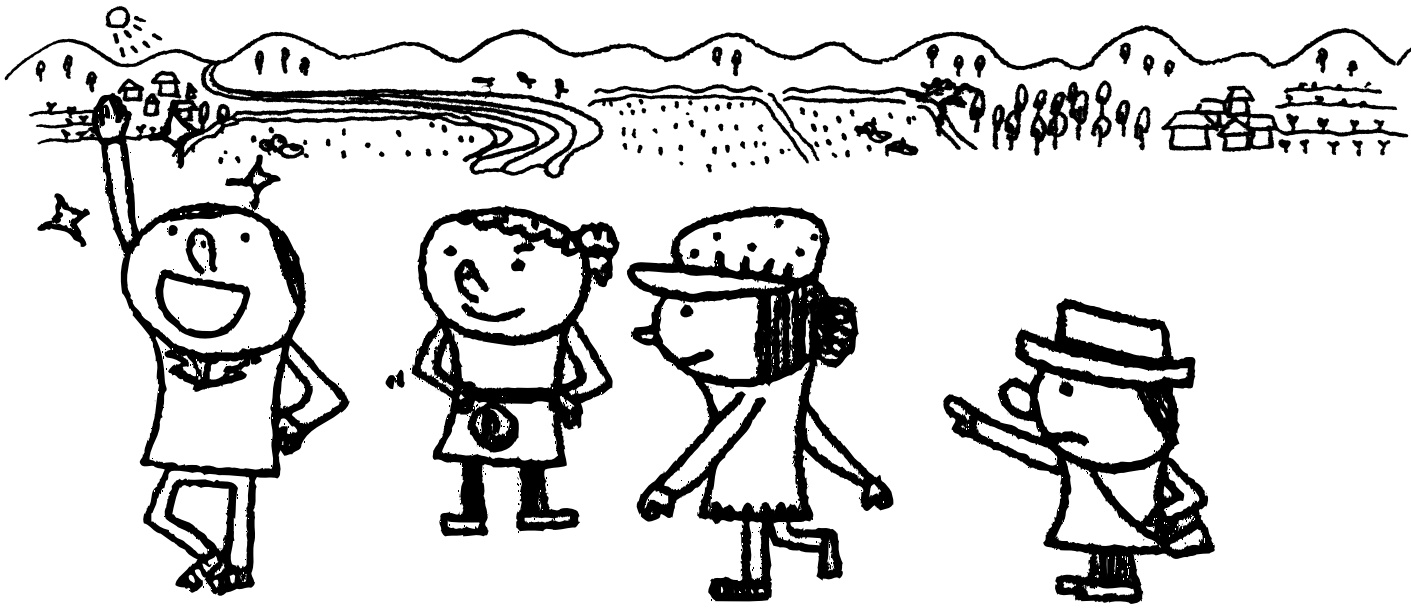
海洋生物との共存

奈半利町のふるさと海岸では、人工の波消ブロックに天然のサンゴが着床。この世界的に珍しい現象を町の観光の起爆剤にしようと、有志が集まりサンゴウオッチング船を運行。街並み散策や大敷き網体験などとセットにした体験観光にも取り組みはじめている。また、室戸岬新港では、麻布大学がアニマルセラピーの一環としてイルカを飼育。一般の人でもこのイルカ達の見学やエサやり体験ができるとあって、立ち寄る観光客が多い。

高知県東部には、この他にも

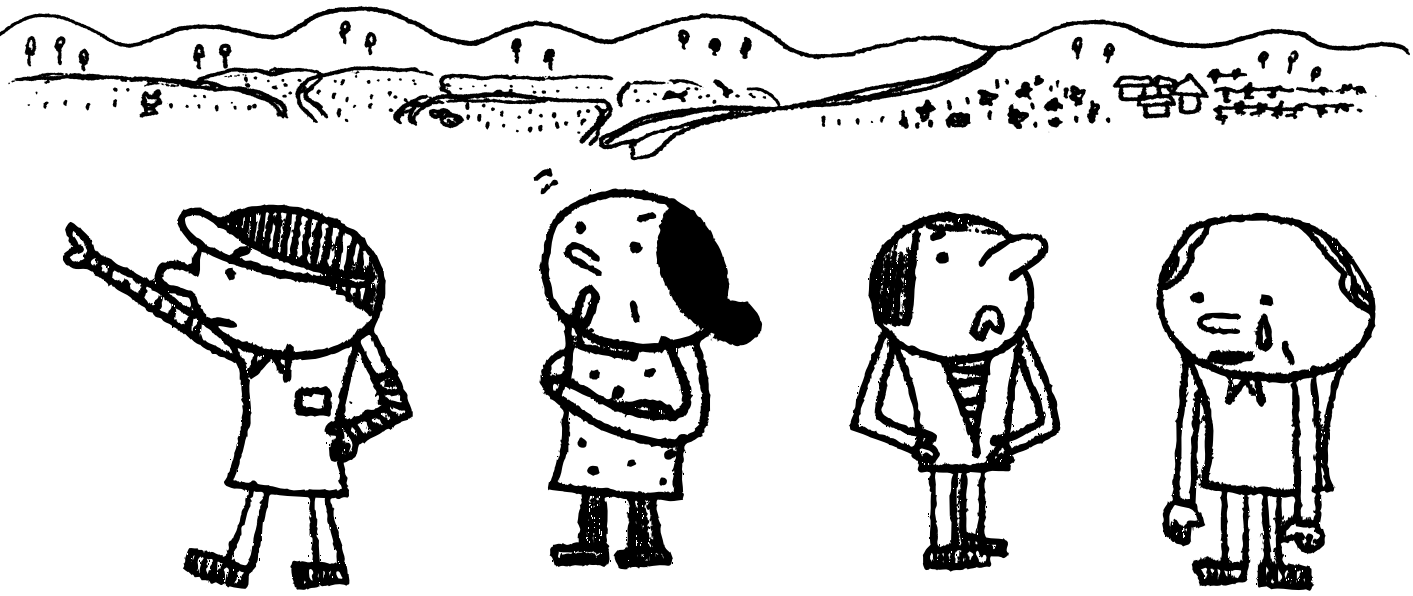
魅力的な観光資源はまだまだあります。

受け入れ体制を作ったら人も集まるし、
人が集まったら仕事先もできるきね。
観光、交流を新しい地域づくりの柱として
智恵を出しおうて
やってみんかえ!!



町や村から子どもらあの声が聞こえんなったし、
商店も扉を閉めたまんま。
時代とともに社会も変わるゆうたち
あんまりことやないろうか・・・

廃れるばっかりを見ゆうだけじゃあいかん。
暮らしを豊かにしようやいか、
ほんで次の世代の子どもらあにも
誇れる地域として残しちやおやいか。
ここらでひとつ、きばってみんかえ！



目標を定めたら、実行に移そう！

高知県東部観光ビジョン策定委員会／高知県東部・徳島県南部視察風景

第2章

観光ビジョンづくりの計画と施策

観光地づくり＝地域づくり

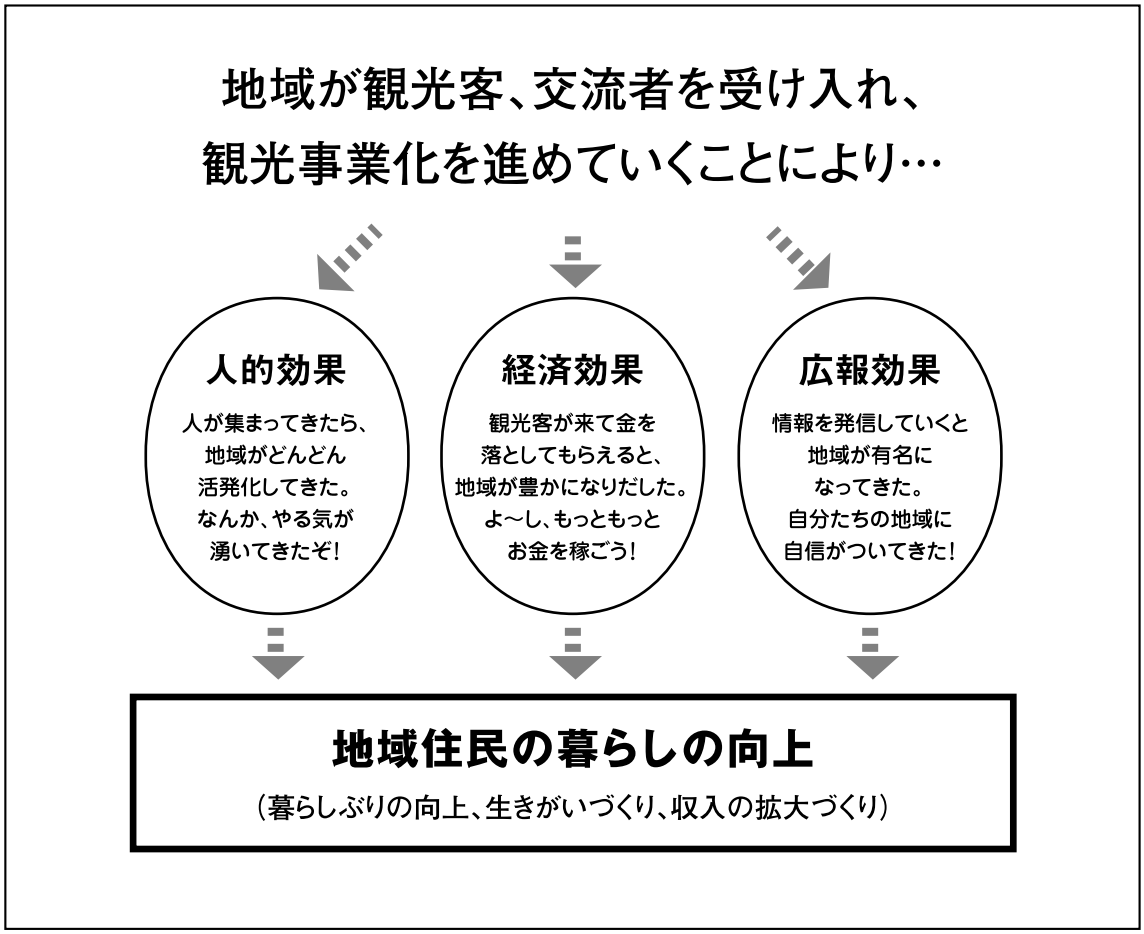
高知県東部地区における観光ビジョンの策定では、地域が観光客を受け入れ、観光事業化を進めていくことにより、地域住民の暮らしの向上を図ることを目的とする。それは、地域住民の暮らしぶりの向上、生きがいづくり、収入の拡大づくりにもつながり、しいては地域の活性化にもつながる。したがって、ここでは観光を地域振興の起爆剤として位置づけ、「観光地づくり＝地域づくり」の視点で、ビジョンの策定に取り組むものとする。

しかし、地域が潤うのなら何をしてもいいわけではない

住民本位の暮らしが守られ、また、地域のテーマに沿った計画とすべきであり、自然環境を重視し、都会にはない豊かな景観、自然、伝統を損なわない観光ビジョンとする。

また、地域外から新たな施設等を誘致するのではなく、地元の資源を有効に活用した、観光開発に取り組むものとする。

［観光ビジョン実施の効果］



［観光ビジョンのフレーム］

グリーンツーリズム等による体験型観光・交流の創出と地域の活性化

［地域との共生］

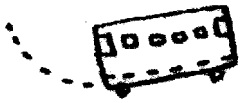
地域の暮らしや
自然を損なわない
ビジョンづくり

［活動への仕掛け］

来訪者を呼び込む
資源を磨く、創る

来訪者を呼び込む
装置や仕掛けをつくる

来訪者の
受け入れ体制をつくる



［地域の元気づくり］

観光地づくり＝
地域づくり

［東部地域のテーマ］

地域資源を
活用した
観光開発

［具体的計画］

○100カ所程度の見どころ、イベント、食、体験メニューをつくる
○東部地域の魅力を発信する
○実施に向けた組織づくり、ネットワークづくりに取り組む

［ビジョンづくりの5カ条］

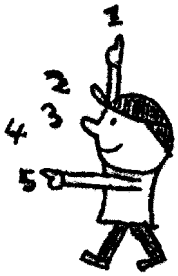
第1条
住民が豊かに暮らせる地域であること

第2条
来訪者が喜ぶ地域となること

第3条
観光資源を磨くこと

第4条
高知県東部を広く知らせること

第5条
広域的な連携・ネットワークをつくること



2.ビジョンづくりの5カ条

観光ビジョン策定にあたって取り組むべきポイントを次の5箇条として設ける。

第1条（地域を元気にする）

住民が豊かに暮らせる地域であること

第2条（来訪者をもてなす）

来訪者が喜ぶ地域となること

第3条（地域の宝物を見直す）

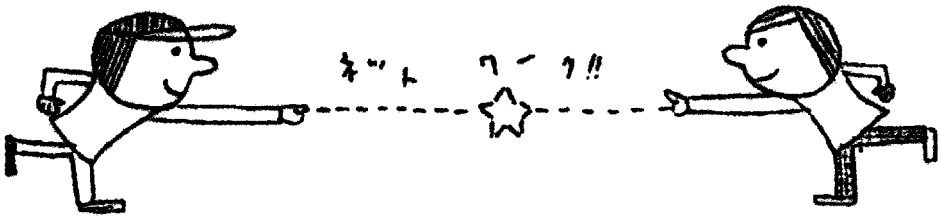
観光資源を磨くこと

第4条（地域の良さを報せる）

高知県東部を広く知らせること

第5条（受け入れ体制をつくる）

広域的な連携・ネットワークをつくること

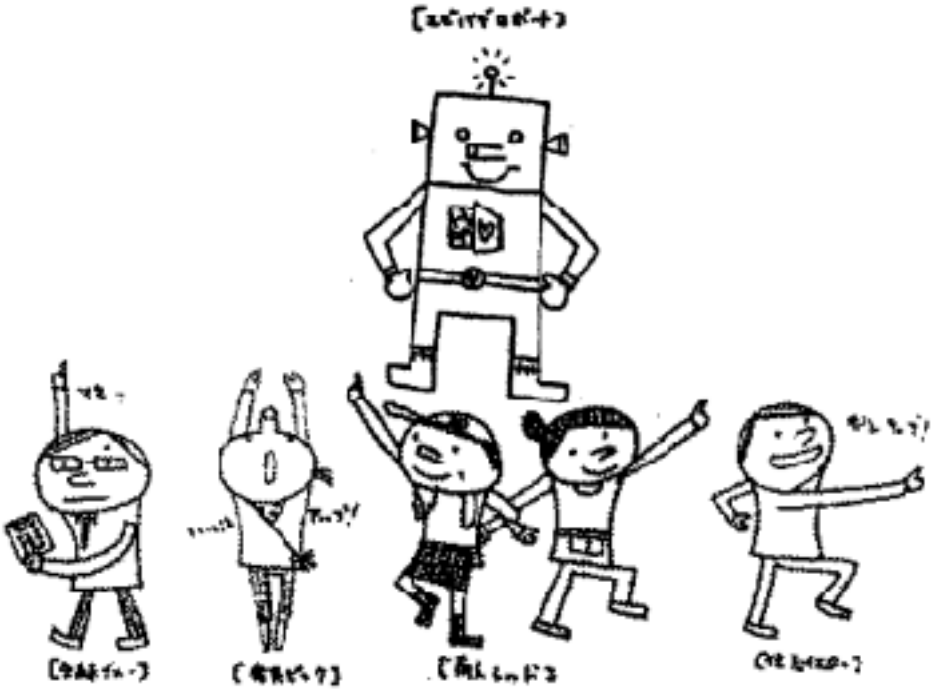


第1条 地域を元気にする

住民が豊かに暮らせる地域であること

何はともあれ、地域住民が豊かになることがこのビジョンの目標だ。

観光産業を柱として人を呼び込み、健康で明るく豊かに暮らす社会とするために、地域住民も積極的に人材を育て、モノをつくり、サービスなど受け入れ体制を整える。



取り組みの基本方針

○地域の良さをもっとよく知る

○地域ぐるみで連帯感をもって取り組む

○お金を稼ぐ手立てを考えて実践する

○高齢者等の人材活用に取り組む
（社会参加・生きがいづくり）

○永続性のある事業活動に取り組む

第2条 来訪者をもてなす

来訪者が喜ぶ地域となること

地域外から訪れる人にはそれぞれ理由や動機がある。どんなタイプがあるか。観光客のほかにも、ビジネス客、親戚や知り合いへの訪問者、遍路客等がいる。それぞれに訪れた土地の印象をもって帰る。

できれば、その時「また来よう」と思える土地にしようじゃないですか。心のこもった料理やおもてなし。また、一声、挨拶をかわすことで来訪者はいい気持ちになるもんです。

取り組みの基本方針

○普段通りのおもてなしを実践する

知人に接するように対応するだけでいいんです

- 挨拶をする、声をかける、親しみを持つ
- 地元の食材や料理を提供する
- 地域をキレイにする（清掃、花いっぱい運動等）
- 地域を案内する

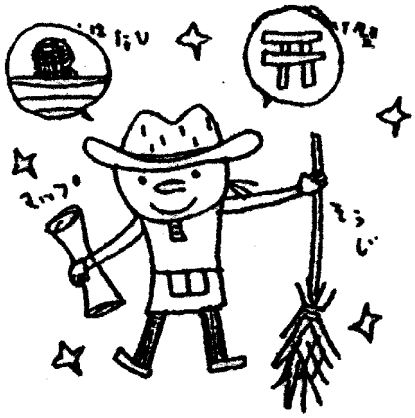
○アクセスの利便性

- 訪ねやすいアクセス整備に取り組む（時刻表等）
- 地域内の交通体系を整備する（二次交通）

第3条 地域の宝物を見直す

観光資源を磨くこと

そんなに難しいことではありません。ナスの産地はナス料理を。昔から伝わる特産品があれば、それを商品化させる。見どころ施設の周辺をキレイにする。海や川など、人の訪れるところはゴミを取り、掃除をしてキレイにしましょう。「何ちゃあないところ」なら、つくればいいんです。例えば、休耕田に花を咲かせる。それだけで人は魅了されるんです。



取り組みの基本方針

○昔ながらの風景やモノを見直して資源として活用する

○地域の身近なところを掃除する。

○「高知県東部地域にしかない」体験メニューや商品をつくる

○地域の資源を活用して体験型の交流システムをつくる
- 自然散策、町並み散策、スポーツ体験等
- 食材づくり、料理づくり等
- 案内人やインストラクターを育てる
- ガイドマップや誘導案内看板等をつくる

○空三活用プロジェクト
- 空地、空家、空き時間の活用
  （休耕田を花園に、空家を交流拠点や民泊に。また、空いた時間でボランティア活動を）

○イベントの開催
- 地域の特産品を利用したイベントをつくる

第4条 地域の良さを報せる

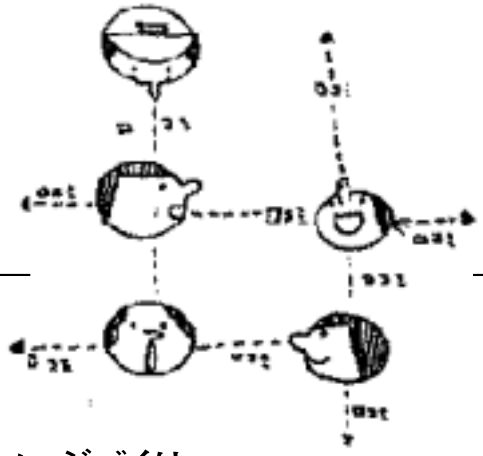
高知県東部を広く知らせること

どんなええところでも伝えなければ、訪れる動機とならない。とにかく知ってもらうには、新聞やテレビ等マスメディアの活用と、ポスターやチラシ等での告知が効果的である。

また、予算をかけなくてもできるのが口コミ。知人や親戚に話題を提供するだけで関心がある方なら広く知らせてくれる。

例えば、室戸岬周辺のダルマ太陽は、地元住人は昔から知っていた。最近それを知らせ始めたら、たくさんの方が見学に訪れているんです。

統一したイメージをつくり、視覚的なデザインやシンボルマークも必要です。



取り組みの基本方針

○高知県東部地域のイメージづくり
- 地域のシンボルとなるイメージをつくる（イメージの一元化）

○戦略ブランドづくり
- ストーリー性のある話題や出来事をつくる

○わかりやすい案内やアクセスの装置づくり
- 地域内外の看板、サインの設置

○情報発信の強化
- 行政はマスメディア等を積極的に活用する
- 住人は地域外の知り合いに話題を提供する
- パンフレットや情報誌等を配布する
  （情報発信に向けた予算化）

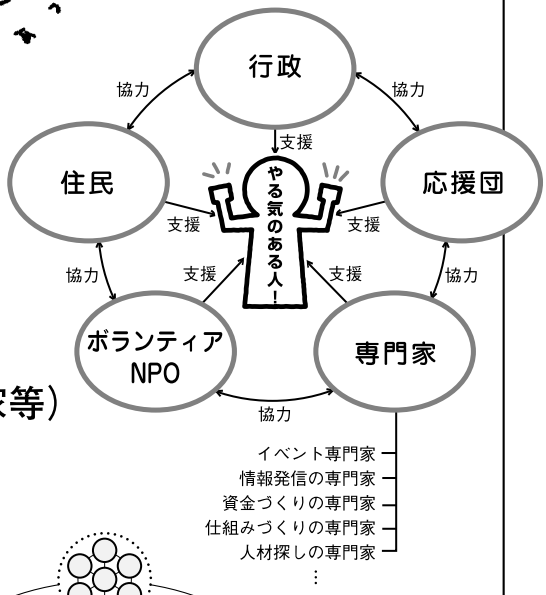
第5条 受け入れ体制をつくる

広域的な連携・ネットワークをつくること

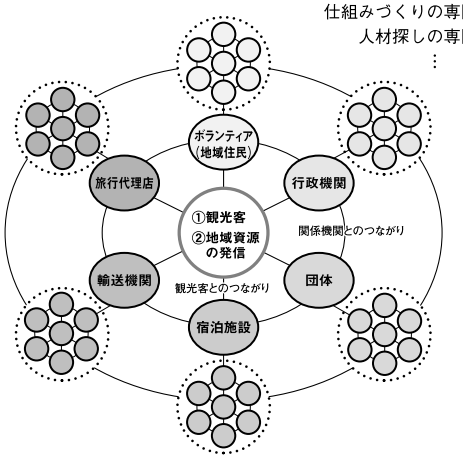
例えば、宿泊業界等の集まりでは、宿泊業界のことしか分らない。そこに、住民、行政、輸送、旅行代理店等のさまざまな情報と知恵を持ちあえば、活動の幅が広がる。また、地域の中で何かを起こそうとした時、地域住民だけでは、設立の手法が分らないこともある。そこに、行政、NPO、専門家等が連携すれば、より実践的な取り組みが可能となる。いろんな人が集まって足りないところを補完し合い、観光・交流を地域づくりに活かそう。

取り組みの基本方針

○官民一体となった
組織体制をつくる
・住民参画を呼びかける
・応援団をまきこむ
・よそ者の目を入れる（専門家等）
・やる気のあるグループを
積極的に支援する



○観光客と単一の
つながりでなく、
広域エリアの中で、
関係機関が連携し、
一体となった
つながりを持つ



まず一つ、自慢の資源を磨いてみよう!

高知県東部地域にはまだ磨かれていない観光資源がある。しかし、資源をそのまま見せていても、来訪者にインパクトを与えることはできない。高知県東部に位置するそれぞれの市町村から一つずつ、テーマと重点的に売り出していく観光資源を抽出。テーマにそって、この観光資源を徹底的に磨き、情報発信を行い、活動組織やネットワークをつくり、お金になる仕組みづくりに取り組んでいく。要は、来訪者を満足させるために、旅、見どころ、食、体験、達人、遊び等を紹介すること。そして、一つの観光資源について、仕組みづくりまで行うことができれば、次の資源に取り組む。高知県東部地域の各市町村に、自慢できる観光資源が増えていけば、来訪者も増え、それらを広域的に取り組むことで、新たな観光コースが創出できるようになる。

テーマの視点

・時間消費の拡大　・小グループの観光
・テーマ追求の観光　・地元住民や暮らしとのふれあい

↓

テーマの設定

「モノを売る」から「時間を売る」「営みを楽しませる」

↓

資源の抽出

・農業
・林業
・漁業
・食
・自然景観
・・歴史文化
・遊び etc

→

資源の整理

・ストーリー性
・体験の指導
・情報発信
・受け入れ体制の整備
・地元住民の協力
・専門家のアドバイス
・体験メニューと対価の設定

↓

来訪者に向けた観光資源としてデビュー・情報発信

大きな感動を育てていこう!

観光の資源を見直す時、「心をこめたものであること」、そして「それが存在しているだけでなく、いかに磨かれているか」という要素が重要となる。

磨くとは、地域の価値を地域の人が理解し（誇りに思い）、今も暮らしの中で輝いていることだと考える。

旅の原点は「人」であり、そこで暮らす人の生き様に触れて、旅の感動が生まれる。高知県東部では、ただ見るだけの感動から、地元の人との交流を通して、大きな感動に育てていこう。

・住民の豊かさのために
・来訪者の喜びのために
・情報発信したいスポット

⟷

地域の当たり前（日常）は、よその人が見ると魅力になる（非日常）

観光のテーマ

今は、地域も人も先の見えない時代といえる。未来は過去の延長にあり、先の見えない時代にこそ、過去（足跡）を見つめることが重要といえる。しかし、その過去が今の都市部に存在していない。したがって、歴史を伝える人・モノ・建物、暮らしの知恵や食文化、海・山・川で育まれた自然、そんな資源と触れ合うことが、これからの旅の動機となる。そこで、高知県東部観光ビジョンでは、暮らしの原点と触れ合う旅を観光のテーマとし、ノスタルジックな旅や自然体感の旅を創出する。

暮らしの原点を触れ合う旅
- → **ノスタルジックな旅**
- → **自然体感の旅**

太平洋を望む海岸線

高知県東部の南側に広がる太平洋は、日や場所によって様々に変化する風景を見せる。芸西村の琴ヶ浜から眺める穏やかな海原、室戸岬の岩場に打ちつけられる雄々しい荒波、東洋町で見られる美しい白浜の海岸沿い等、美しい太平洋の景観は、多くの人が見て感動する自然の芸術となる。また大いなる恵みを育む太平洋は、昔からそこに住む住民の暮らしをも育んできた。この美しいシーンを眺めに立ち寄れる仕掛けをつくろう。

資源を磨く ポイント

①おすすめビューポイントをつくる（地元料理等の店舗が併設できると楽しい）
②歴史・文化・地質のポイントをPRする
③誘導案内看板・サイン類等を設置する
④ウオーキング等のイベントを開催する
⑤写真や書画等の愛好者に知らせる
⑥ゴミ掃除をして、海岸線をキレイにする

自然が見せる不思議なダルマ太陽

気温の低い秋から春にかけ、室戸岬を挟んで東側の海岸では太平洋から昇る「だるま朝日」が、西側の海岸からは太平洋に沈む「だるま夕陽」が見られる。海面から立ち昇る水蒸気の層により光が屈折して起こる自然現象で、太陽が水平線に近づくと、水面に映った太陽とくっついたように見え、だるまのような形になる。だるま夕陽とだるま朝日が両方が見られるのは、高知県東部地域の大きな魅力の一つ。このビューポイントは人を呼び込むのに大きな資源となる。

資源を磨く ポイント

①ビューポイント周辺に案内看板を設置する
②ダルマ太陽を眺める散策コースをつくる
③おすすめビューポイントの案内ガイドを育成する
④夕陽を背景にしたコンサートやイベントを開催する
⑤カメラ愛好者を集めた撮影ツアーを開催する
⑥田野町が実施しているフォトコンテストをさらに拡大する
⑦「ジンクス」や「伝説」の名所として物語をつくる

海の生き物との感動的な出会い

土佐湾は日本有数のクジラ生息域として知られ、室戸市でも佐喜浜漁港等からホエールウォッチングの船が出航している。室戸沖では主にマッコウクジラやゴンドウクジラが見られ、時にはイルカの群れも見られる。また、奈半利町では消波ブロックに付着したサンゴも見られる。そして近年、室戸岬新港で神奈川県麻布大学が飼育するイルカも人気を集めている。これらの生き物たちには、テレビなどで見たことがあっても、実際に目の前で見たりふれ合う機会は少ない。この貴重な体験は、高知県東部地域ならではの観光資源だ。

資源を磨く ポイント

①クジラ・イルカ・サンゴを組み合わせた見学ツアーを開催する
②案内ガイドを育成する
③全国各地の学術研究施設とのネットワークを広げる
④自然環境保護の視点に立った交流活動を実施する
⑤天候が悪い時や見学できなかった時の対応システムをつくる
⑥ウオッチングに適した時期や時間帯等を情報発信する
⑦予約なしの来訪者にも対応できる仕組みをつくる

海を眺めながら新鮮な魚介類を食べる

高知県東部の漁港には、毎日バラエティに富んだ魚介類が水揚げされる。これらの魚を新鮮なままで料理して食べさせる施設は、集客に向けた大きな魅力となる。この時に考慮したいのが施設の雰囲気づくりや景観である。海の見える海岸近くで、地元の漁師料理が味わえる等が望ましい。また、東洋町のマンボウ料理や室戸市のキンメダイ料理等、東部地域ならではの味を掘りおこして、来訪者にアピールしていきたい。

資源を磨く ポイント

①漁師料理等を掘りおこして、地域の食材メニューとする
②景観や風情を大事にした施設をつくる
③大敷き網漁の体験等とセットにした交流システムをつくる
④四季のおすすめ食材や料理を情報発信する
⑤宿泊施設や遊漁船等と連携して来訪者を受け入れる体制を強化する
⑥土産品等の開発に取り組む（購入した新鮮な魚介類の宅配等）

若者を呼び込むマリンスポーツ

高知県東部地域の海では、サーフィンをはじめ、シーカヤックやヨット等のマリンスポーツが、多くの地域で楽しめる。特に東洋町の生見海岸は、一年中多くのサーファーが訪れるサーフィンのメッカ。また、室戸岬新港や奈半利町ふるさと海岸でも、シーカヤックやスキューバダイビングが体験できる。マリンスポーツは若者を通じて高知県の東海岸を全国に印象づける重要な資源であ

資源を磨くポイント

①体験教室を開催する（窓口案内等の情報発信の充実を図る）
②体験教室等で使用するレンタル用品の充実を図る
③インストラクターを育成する
④全国紙などで高知県東部のマリンスポーツポイントを紹介
⑤マリンスポーツの全国・国際大会を誘致する
⑥安く連泊できる宿泊施設等を整備する
⑦長期滞在する若者にアルバイト等を斡旋する

日本一のアユが棲む清流

高知県東部地域では、急峻な山々から幾筋もの清流が太平洋へと注ぎ込んでいる。そして、この清流は昔から地域の人々にとっては、魚を捕ったり、子どもたちの遊び場であったりする。アユ漁のシーズンともなると、地域の内外からたくさんの太公望が訪れる。毎年、高知市で行われ、清流のバロメーターともいわれる全国ききアユ大会では、安田川や野根川が全国一に輝いたこともある。このように高知県東部地域の川は、地域の人々にとっても自慢の川であり、地域外の人にとっては憧れの清流ともいえる。この川の環境を護りながら、地元ならではの川の遊び方を体験させることは、魅力ある観光資源である。

資源を磨くポイント

①来訪者が気軽に川遊びできる体験エリアをつくる
②看板・サイン類で川遊びのポイントを案内する
③ハエナワ漁等を教えるインストラクター（川の達人）等を掘りおこす
④川でのイベントを開催する
⑤地元の川魚が食べられる食事処を増やす
⑥川の景観や水質等の保全を推進する活動に取り組む（地域ぐるみ、来訪者参加型）

林業が華やかな時代の遺産・森林鉄道

その昔、馬路村や北川村で切り出された良質の木材は、地域内を走る森林鉄道により、田野町や奈半利町まで運び出されていた。運ばれた木材は、主に京阪神に向かって出荷され賑わっていた。また、木材だけでなく地域住民や生活物資を運ぶ、貴重な公共交通として人々から親しまれていた。現在は観光施設として馬路村に整備されているが、軌道跡は中芸一帯に残り、高知県東部の特色ある産業・生活文化の史跡としての価値は高く、新たな観光ポイントとして期待できる資源である。

資源を磨く ポイント

①史跡や軌道等の調査と整備に取り組む
②散策できる軌道跡のルート化に取り組む
③ルート周辺への案内看板を設置する
④案内ガイドの育成
⑤林業や森林鉄道にかかわる歴史、写真等の展示施設をつくる
⑥森林軌道跡を活用したウォーキングイベントを実施する
⑦全国に残る森林鉄道跡のある地域との交流を図る

森に残る野根山街道の歴史

奈半利町から東洋町までの尾根伝いに続く35.6kmの街道で、その昔、参勤交代や維新の志士たちの脱藩ルートとして利用された。途中には、岩佐の清水や、参勤交代の途中に装束を着替えたと伝わる装束峠、旅人が根元で夜を過ごしたと言われる宿屋杉等、多くの史跡や見どころが残る。この歴史的街道をもっと人が訪れ、森林浴やウオーキングが楽しめるものとしよう。

資源を磨く ポイント

①パンフレットや散策地図等で街道ルートを紹介する
②ルート周辺への案内看板を設置する
③一里塚の設置や石畳の道づくり等、昔の面影の再現に取り組む
④街道でのウオーキングイベントを開催する
⑤案内ガイドの育成に取り組む
⑥歴史的街道として江戸時代の参勤交代等の情報発信に取り組む
⑦街道沿いの動植物を調べ、エコツーリズムの実施に取り組む

自然と文化に癒しを体験する遍路道

今も昔も変わらず、人々の厚い信仰を集める四国霊場88ヶ所めぐり。高知県東部地域には、土佐に入ってから最初の札所、第24番札所「最御崎寺」をはじめとする4つの寺社が立ち、一年を通して多くのお遍路さんが訪れている。高知県東部地域にある遍路道は太平洋沿いに多く、美しい風景や弘法大師ゆかりの史跡が多く点在する。近年では、この遍路が「自分自身に挑戦する旅」「自分自身を見つめ直す旅」として注目を集めさまざまな交通手段を使って、数多くの人が訪れている。この遍路に残る文化や風習を、高知県東部の大きな観光資源として活かしていきたい。

資源を磨く ポイント

①歩き、車、公共交通等、交通手段別に分かりやすい案内看板を設置する
②遍路文化を体験できるルートマップを作成・配布する
③お接待等を地域ぐるみで取り組む体制をつくる
④遍路のための休憩所や宿泊施設を整備する
⑤遍路道を活用したウオーキングイベントを開催する
⑥昔の遍路道の再現に取り組む
⑦遍路文化を学ぶことができるビジターセンターを設置する

地域の息づかいが残る昔ながらの町並み

高知県東部地域には、各所に昔ながらの町並みが残る。藩政時代の面影を残す安芸市の土居廓中や、国の重要伝統的建造物保存地区にも指定されている室戸市の吉良川、製糸業や運送業で栄えてきた奈半利町の町並み等、それぞれ歴史文化、暮らしが異なり、様々な様式があるのがおもしろい。各地に残る街並みを、それぞれの特色を活かしながら整備し、町並みボランティアガイドによる案内が受けられる地域にしていくことで、ノスタルジックな雰囲気を体験できる地域として、高知県東部地域をアピールする。

資源を磨く ポイント

①歴史的建造物や文化的価値の高い建物を調査する
②地域が栄えていたころの生活文化等を調査する
③街並みの空き家、空き地、空きスペースを活用する
④パンフレットや散策地図で街並みコースを紹介する
⑤歴史的建造物や様式を紹介した案内看板を設置する
⑥街並み案内ガイドを育成する
⑦景観保存のためのまちづくりの指針をつくる

ゆのすを使った田舎寿司を食べる

馬路村や北川村といった昔、林業で栄えてきた地域は、この林業に換わってユズの生産に力を入れ、特産品として育ってきた。特に馬路村のユズは無農薬で知られ、ユズジュース「ごっくん馬路村」やユズ酢、ユズみそ等、様々な加工品がつくられ、今では全国にその名が知られるようになった。また、北川村では酒造メーカーとタイアップした商品開発を行ったり、北川温泉ではユズ酢を使った田舎寿司をメニューに加えるなど、特産品としてユズをアピールしている。安芸市においてもユズは親しみ深い食材の一つで、寿司等の調味料として、多くの家庭で使われている。高知県東部として、このユズを観光資源として活用できる方向を探っていきたい。

資源を磨く ポイント

①ユズを使った地域内の料理を商品化する
②ユズ狩りやユズ加工品づくり体験を開催する
③ユズに関連したイベントを開催する
④ユズを使った料理教室を開催する
⑤冬至の時、高知県東部地域の温泉や宿泊施設の風呂にユズを使用する

全国一のナス

高知県東部の農作物の中で、ナスは全国一の出荷量を誇る。ナス料理や加工品もあり、ナスのたたきや焼きナスのアイスクリームが人気。最近では、室戸海洋深層水を使った深層水ナスも注目を集めている。ナスは一般家庭においてもなじみが深く、さまざまな料理に活用できる。このナスの知名度と特性を活かし、高知県東部地域の特産品として改めてアピールすることで、ナスの消費拡大や新たな特産品の開発、さらに高知県東部自体の情報発信につなげていきたい。

資源を磨く ポイント

①高知県東部地域で親しまれているナス料理の商品化をすすめる
②地元料理店におけるナス料理メニューの定着化を図る
③ナス料理が食べられる店を情報発信する
④ナスに関連したイベントを開催する
⑤ナスを使った料理教室を開催する
⑥ナスの収穫体験を開催する

深海からの贈り物・室戸海洋深層水

長い年月をかけて世界中の海底を循環し、室戸沖に沸き上がる室戸海洋深層水は、ミネラル成分を豊富に含む。また、有機物が少ないため清浄性に優れ、低温で安定しているのも特徴。現在、地元企業や大手企業が参入して、飲料水をはじめ自然塩、醤油、化粧品など様々な分野で活用されている。この室戸海洋深層水という資源は、高知東部ならではの資源としてアピールし、観光・地域振興にも一層役立ち、より幅広い分野で活用できるようにする。

資源を磨く ポイント

①高知県東部地域の特産品・土産物として販路を開拓する
②高知県東部の宿泊・飲食店などで海洋深層水を使うことを奨励する
③海洋深層水を利用している宿泊・飲食店を「海洋深層水の店」とする
④海洋深層水の清浄性・有効性を裏付けアピールする
⑤室戸海洋深層水タラソテラピー施設との連携を図る

室戸海洋深層水を活用した 高知県東部の新しい交流・健康増進拠点「いやしの里（仮称）」

高知県東部の先端、室戸岬にほど近い場所に民間と行政が一体となり、平成18年春のオープンを目指して整備を進めているのが「いやしの里公園整備事業（仮称）」である。

この施設は、室戸特有の海洋性気候や自然環境、そして高知県で現在最も注目を集めている資源「海洋深層水」を最大限に活用し、利用者の健康づくりを目的としたもの。専門の療法士のアドバイスや補助員のケアのもと、海洋療法（タラソテラピー）を行う滞在型施設や利用者自らが運動等を行う海洋深層水体験施設、緑地公園、特産品販売施設、遊歩道などが整備された複合施設。県内外から訪れる利用者と地元の人々の交流につながるイベントの開催や憩いの場所としての活用も期待されている。

（1）海洋療法（タラソテラピー）施設

①民間企業施設

民間のノウハウを活かし、海洋療法士等の指導のもとで健康づくりを目的とした、免疫力や自然治癒力の向上を図る滞在型施設

・グランジェ、ジェットバス、灌水シャワー、アルゴ・ファンゴパック、食事療法等タラソテラピー機能
・レストラン、ホテル

②室戸市健康増進施設

健康づくりを目的とし、高齢者等のリハビリテーション機能等を有した海洋深層水体験施設

・遊泳歩行プール、アクアフィットネス、ミストサウナ等タラソテラピー機能

（2）緑地公園

森林等「緑」のリラクゼーション機能を活用した、いやしの場を形成する施設

・森の散策道、常緑樹植栽等

（3）地域産物販売提供施設

室戸市民や観光客の交流を促進するとともに、漁村地域の活性化を図る施設

・海産物直販所等

田舎にフランスの香りあふれるモネの庭

開園以来多くの観光客や行楽客を惹きつけてきたモネの庭マルモッタン。高知県東部地域の中山間地、北川村に、フランス出身の印象派の画家、クロード・モネが43歳で移り住んだジヴェルニーのアトリエの庭を再現。広々とした園内に、明るい日差しが降り注ぎ、色とりどりに咲く、鮮やかな花々が人気を博し、オープン当初は年間20万人もの入園者を数え、高知県東部の観光拠点となった。北川村では、このモネの庭と中岡慎太郎館、北川温泉の3つの施設の共通チケットを販売している。今後は他の市町村とも連携を図り、さらなる魅力づくりに取り組む。

資源を磨く ポイント

①周辺の観光地と連携した観光ルートを開発する
・アート創作ルート（陶芸、ガラス細工等）
・高知県東部地域の温泉との連携

高知県東部の夢を乗せて走るマイレール

これまで、公共交通機関としてバスしかなかった高知県東部地域に、平成14年7月、住民の悲願であった土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線が開業した。高知県東部の町並みや雄大な太平洋を望みながら走る高架された路線、高知県出身の漫画家やなせたかし氏が各駅ごとにキャラクターを考案したことが話題となり、地元住民ばかりでなく、県内外から多くの利用者が訪れ、高知県東部の魅力を改めて知らしめる結果へとつながった。また、各駅周辺の清掃や花壇の整備に地元住民がボランティアで参加。さらに、各市町村が横断的に鉄道を活性化させるための協議会を設置、NPO法人と協働でイベントや話題づくりを行うなど、集客や沿線の人々のマイレール意識を向上させるための工夫を凝らしている。このブームや活動を一過性のものにせず、鉄道、行政、民間、そして地域住民がさらに連携したり工夫を凝らし、情報発信、地域振興の核としてごめん・なはり線の活用が期待されている。

資源を磨く ポイント

①鉄道と東部観光地を一体にした観光モデルコースを開発する
②ごめん・なはり線の路線沿いを花でいっぱいにし、新しい魅力をつくる
③ごめん・なはり線のファンを全国に広げる
④ユニークな企画列車を運行して話題づくりをする
⑤やなせたかし氏のキャラクターを活用して特産品を開発する
⑥鉄道と他の公共交通との連携を明確にし、利便性を向上させる
⑦鉄道と沿線の話題をインターネット等で発信する

ボランティアホリデーを受け入れる地域に

自然とふれあう体験観光とともに、農林業の作業を手伝うことを楽しみとする都会人が増加している。高知県東部地域においても、国土交通省の「交流人口拡大による地域活力向上のための施策モデル構築に関する調査」の実施に向けた会議で、安芸市、夜須町がボランティアホリデー調査対象地域として指定された。都会の住民がボランティア活動をしながら、地方に長期滞在をする。その一方で、地方にとっては交流人口の拡大、地域の活性化につながり、高知県東部地域にとっては、安芸市、夜須町に限らず、観光を柱に地域づくりを行っていくうえで、ボランティアホリデーの活用は大きなメニューとなると思われる。

資源を磨く ポイント

①都会から訪れる利用者のニーズと、受け入れる側のニーズをコーディネイトする人材を育成する

②体験メニューや地域ならではの文化や遊びを紹介できるようにする

③利用者と地域住民の交流の場所をつくる

④遊休施設や民泊を活用して、利用者が長期滞在できる環境を整える

⑤地域の産業団体、民間企業と交渉し、利用者がボランティア活動をできる場をつくる

⑥ボランティアホリデーやグリーンツーリズム受け入れの情報発信をする

高知県東部地域の資源をどんどん発掘し、

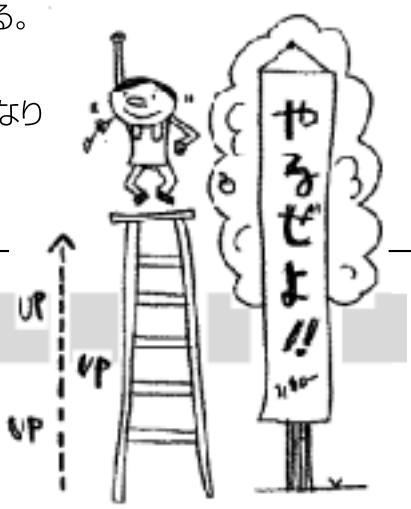
磨き、光らせて魅力を売り出していこう。

当たり前のことをしよう!

ビジョンで掲げた計画を、次にカタチへと実践していく。その時に、「何をするがぜよ!」を以下に記す。

ビジョンで指針や資源の磨きどころ・モノを決めた。魅力ある地域にしていくためには、その実践とともに、来訪者へのおもてなしが重要となる。

みんなができること、地域の中で当たり前のことを来訪者にしてあげる。それだけで来訪者は気持ち良くなりまた地域を訪れてくれる。



3つのアクション

その1 あいさつをしましょう

交流のはじまりは、まずお互いに声を掛け合うこと。積極的にあいさつをしてみましょう。

その2 手助けをしましょう

観光客や旅行者は、その地域のことを何も知らず不安がいっぱいです。優しく介助しましょう。

その3 ゆっくり暮らそう

都会のようにあくせく急ぐ必要はありません。のんびり田舎の時間を楽しんでいることを自慢しましょう。来訪者は、うらやましく感じるはずです。

次に、お金になる活動へ発展させましょう!

来訪者（ビジネス、観光、行楽等）の中で観光・交流者の位置づけ

観光客は、その土地のことは何も知りません。

せいぜい、ガイドブックでその一部を知るだけなんです。

人は生まれた時、目も見えず、口も聞けず、

体を動かすこともできません。

経験と**周囲の手助け**で、知恵を得、知識を持ち、

一人の人間となっていきます。

観光・交流者は、その地域のことは何も知りません。

つまり、表現は悪いが、**無知識の方**なんです。

その土地の見どころ、食べ物を知らずに通り過ぎていく。

私たちが声をかけ、手をかけてあげることで

こうした機会に出会うことができれば、

その土地を**もっと好きになってくれる**はずなんです。

できれば、**積極的に声をかけ、手助けしましょうや**!

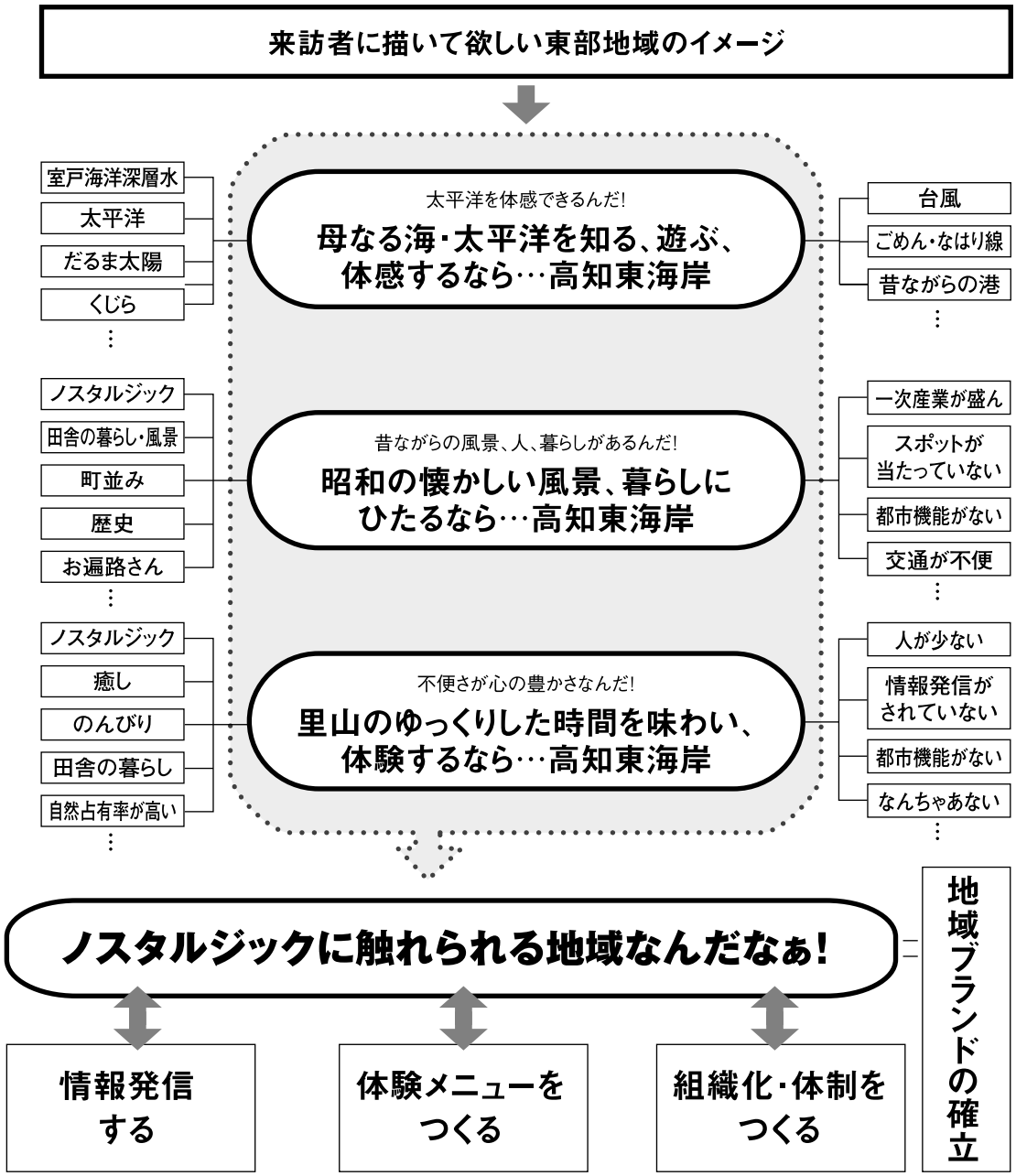
第3章

付帯事業地域の
顔づくり実施プラン

地域ブランドを確立しよう!

来訪者（観光客、ビジネス客、その他）には、できればリピーターとなっていただき、最終目標は定住してほしいものです。では、どんなタイプの方が高知県東部を好きになってくれるのでしょう。来訪者が好き勝手にイメージされては、統一した情報発信ができません。それを整理したのが次の表です。

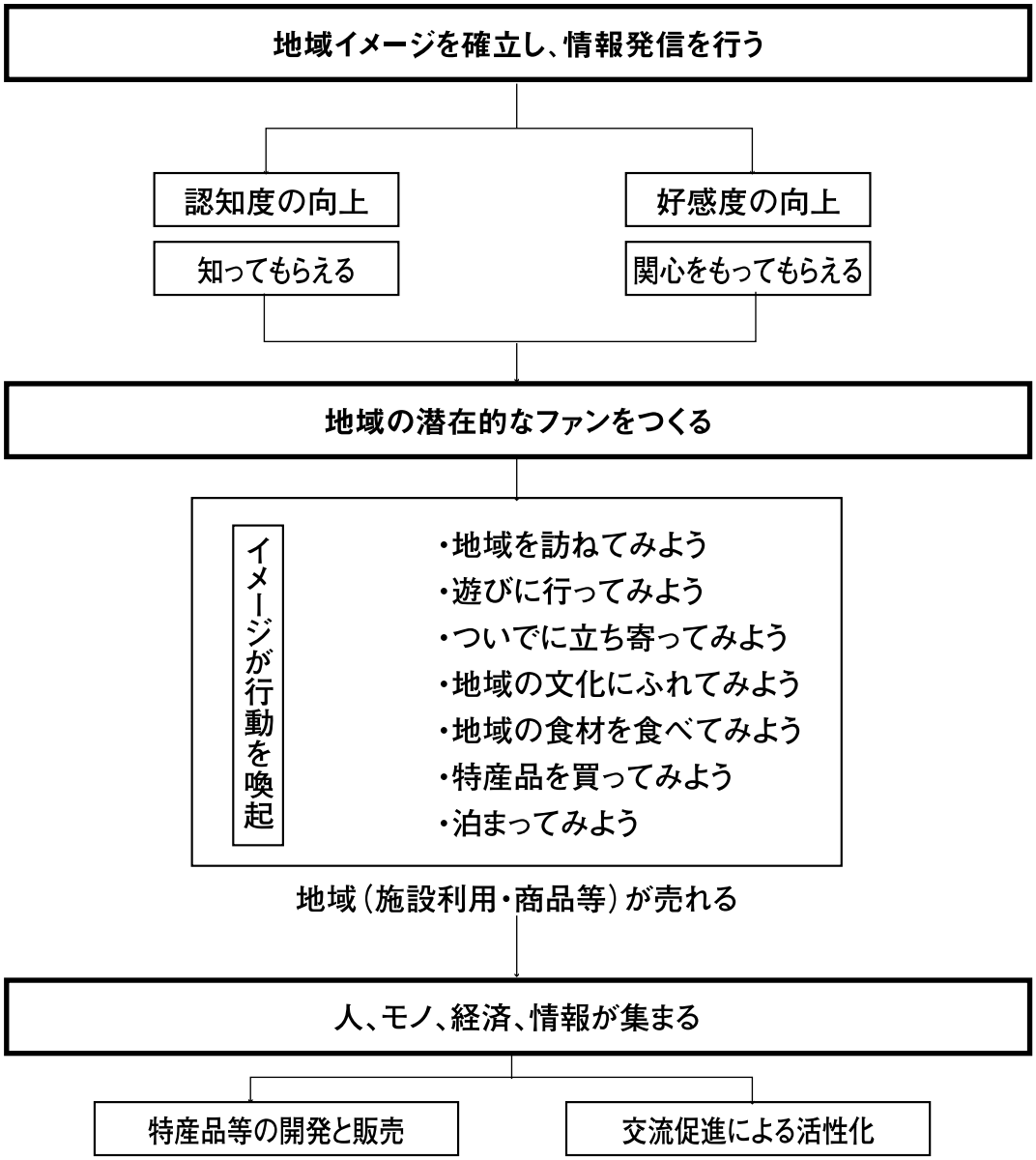
こうした地域イメージを積極的にピーアールし、東部ならではの特性をつくっていきます。



人は情報によって動く!

どんなに素晴らしい名所や観光地があっても、その存在を知ってもらえなければ人は訪れてはくれない。人間はイメージに行動を左右される。このイメージの素となる材料が頭の中にインプットされていなければ、行動することはできないのだ。

だから、高知県東部のことをもっともっと知ってもらうために、あらゆる手段をつかって情報発信しよう。情報がたくさん溢れると、人々は高知県東部のことを元気で楽しそうな地域だとイメージしたくなる。それは、地域外の人だけでなく地域に暮らす人々にとっても自慢のできる、豊かな地域をイメージさせてくれる。



3.高知県東部の地域ブランドづくり

東部地域のイメージづくりで描かれた印象をデザイン化し、発信する。パンフレット、ポスターなど情報ツールや商品カタログ、名刺、ステーショナリーで活用していきたい。

①ブランド、ネーミング

地域の見どころ、おもてなしを統一した印象、「高知東海岸100物語」として発信する。

コンセプト

太平洋に面し、長い海岸線を持つのが高知県東部の特徴。海岸線に沿って産業や文化は発達し、川を経由して山間の地へと伝わっていった。また、この川を下って海へと運ばれた資源や産物も少なくない。豊かな自然環境と、昔から受け継がれてきた日本のふるさとの原風景が、ゆっくりとしたリズムの営みの中で、海、川、山、街、里のあちこちに残っている。

豪華なものはないけれど精一杯の笑顔でおもてなしで出会いや感動、癒しの物語をたくさん紡いだのが高知東海岸100物語である。

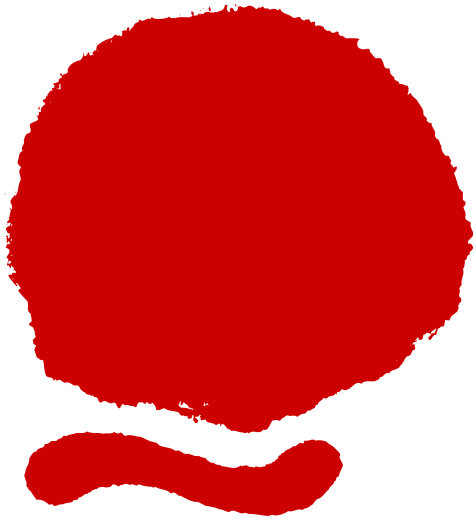
高知東海岸
One Hundred Stories of Kochi East Coast
100物語

タイプフェイス［和文・英文］の考察と組合せ

タイプフェイスはシンボルマークとの調和を考慮し、和文はシンプルな明朝形の書体で構成します。英文については和文を一行で構築する場合はアンダーライン、二行で構築した場合のセンターラインの役割も持たせる意味合いからゴシック形の書体としています。

②ブランドマーク

地域イメージで抽出された印象物、シーンをカタチにしたブランドマークを数点制作し、以下のマークに決定した。



東海岸地域の再構築

Passion
【情熱】

Vivid
【活き活きとした】

Rebirth
【再生】

太陽の光をシンボルとした

シンボルマークの考察

高知東海岸のシンボルマークを作成するにあたり、ダルマ太陽をモチーフとして制作しました。海面から静かに登る（沈んでゆく）雄大な太陽をノスタルジックなイメージで表現するため、ラフなラインでフォルムを構成。丸いフォルムで太陽を、下のラインで海面と海面に写り込んだ太陽をイメージしています。

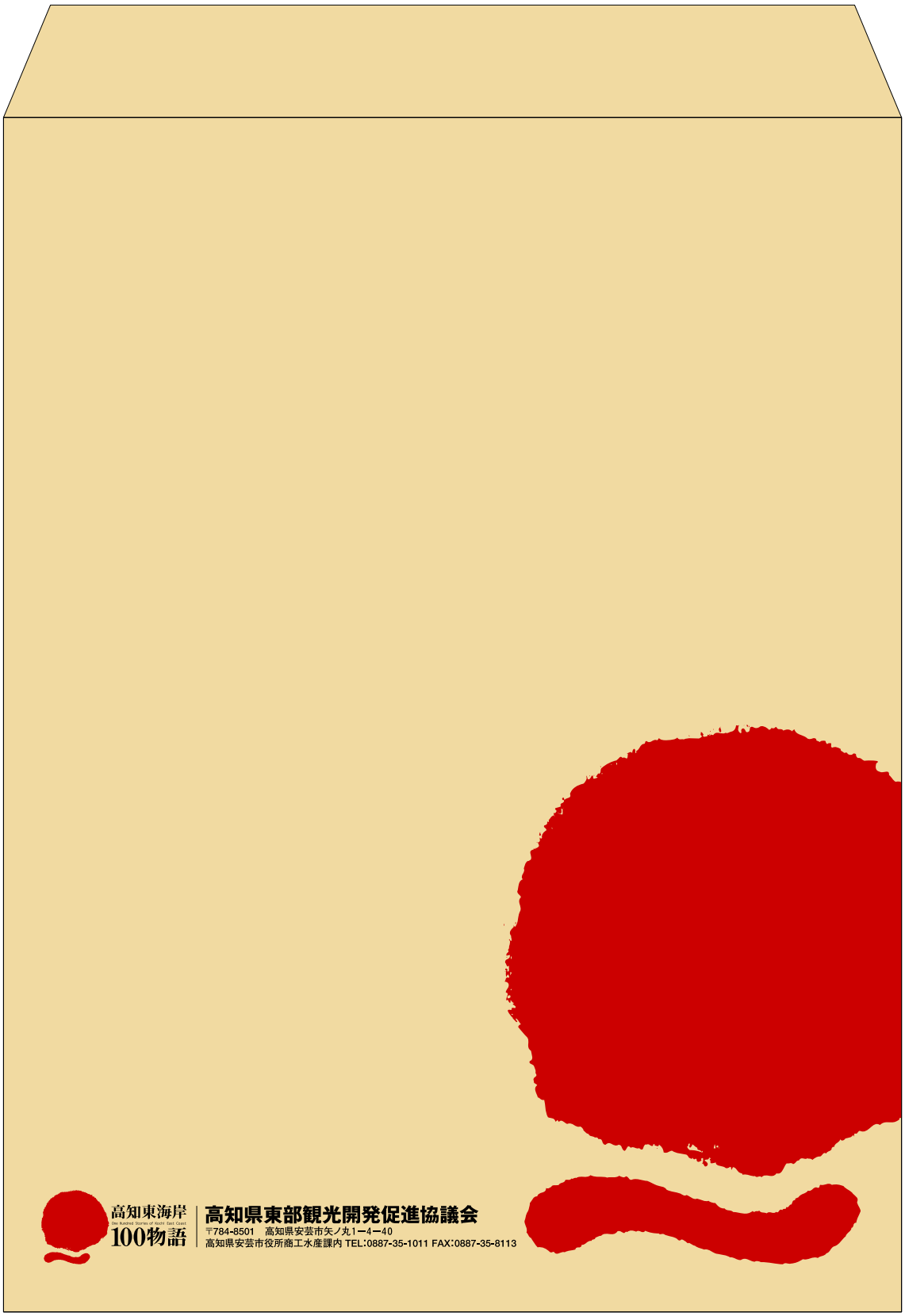
シンボルマークとタイプフェイスの組合せ考察

シンボルマークの基本形とタイプフェイスの組みあわせは使用目的によって様々な形が考えられます。ここではそのバリエーションを考察していますが、最終的にはカラーバリエーションも含め、さらに煮詰めマニュアル制作を行う必要があります。

4.ブランドマークの展開

名刺

封筒


高知東海岸
100物語
高知県東部観光開発促進協議会
〒784-8501　高知県安芸市矢ノ丸1ー4ー40
高知県安芸市役所商工水産課内 TEL:0887-35-1011 FAX:0887-35-8113

■東部地域観光ガイドブック

■ごめん・なはり線時刻表

■道路沿いサイン［1］

■道路沿いサイン［1］

■車両カッティングシート

高知東海岸
100物語
One Hundred Stories of Kochi East Coast

タイプフェイス［和文・英文］の考察と組合せ

タイプフェイスについては、和文は明朝形を基本としながらも、明治・大正時代のまだ印刷技術が未熟でインクのにじみで丸くなった形を表現し高知東海岸の自然のやさしさ、おおらかさをあらわします。反対に英文はすっきりとした書体でアクセントを取ります。

シンボルマークの考察

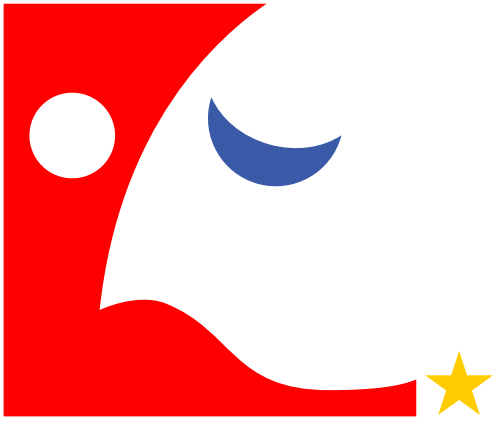
高知東海岸（高知県東部地域）のイメージを「太陽」「山」「水」の3つに求め、それぞれを漢字の元となった篆書体をモチーフに、「太陽」は「日」の文字を基本にダルマ太陽を創作、「山」は篆書体を展開し緑深い山々を、「水」は山と同じく展開を行い、清らかな水の流れを、それぞれラフなタッチで制作しました。

シンボルマークとタイプフェイスの組合せ考察

シンボルマークを3タイプ考察しているため、組み合せは様々な形が考えられます。総合的なPRを行う場合は3つのシンボルマークをまとめて表現し、それぞれ単体で使用する場合は、その使用目的に一番則したものを使用し、タイプフェイスで全体の統一を図ります。

Aタイプの展開のバリエーション

高知県東部地域のブランドマーク候補デザイン **Bタイプ**



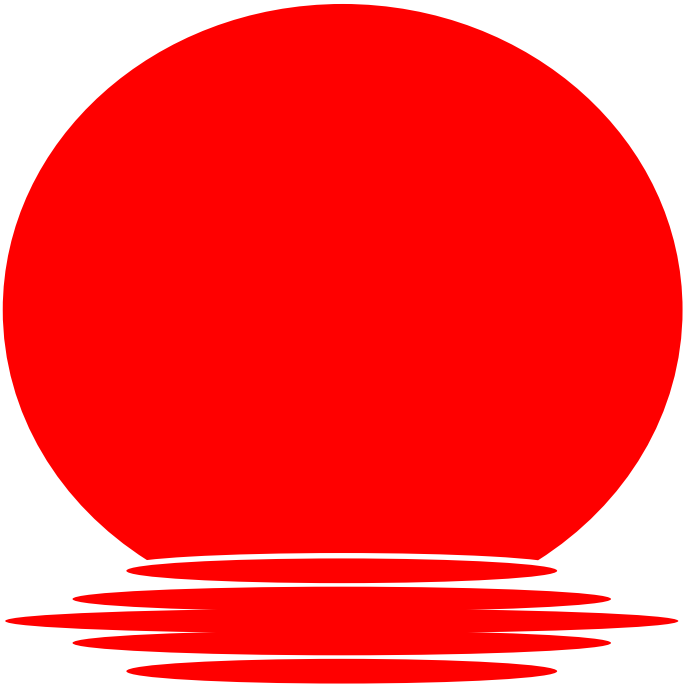
シンボルマークの考察

高知東海岸（高知県東部地域）のイメージを「太陽」「月」「星」「東部地域の海岸線」「人」の5つに求め、シンボル自体が人の顔に見えるようデザイン。直線で描かれたスクエアなシンボルと手書きを含めたシンボルを使用対象で使い分けることも一つの手法と考え、2パターンを考察しています。

シンボルマークとタイプフェイスの組合せ考察

シンボルマークのカラーバリエーションは太陽をメインとする場合と海、又は月･星をメインとする場合で主要なカラーは変化します。太陽をメインとした場合は情熱や暖かさを、月等の場合は、美しさや優しさをイメージする色使いでタイプフェイスとの融合を図ります。

高知県東部地域のブランドマーク候補デザイン **Cタイプ**



高知県東部の未来に向けて

これは高知県東部地域の発展を目指し、あるべき方向性を計画したものです。

自分達の地域をよりよくするためには、これまでの様に行政まかせでは成り立ちません。地域の事は行政と住民が一体になってそれぞれが努力と行動と一定のルールをもつ必要があります。

自分達の世代はまだいいとしても、次の世代を担う子供達には今のままでは悲惨です。人口減、過疎化でまともな暮しができなくなるのです。

この企画のタイトルは観光ビジョンとなってますが、観光は地域づくり手法と思ってください。

さあ、考えよう!そして実践しよう。観光ビジョンをもとに具体的な実施計画、そして実行へ。

自分達の地域の活性化を実現させるために私たちも、誇りをもって私たちのふるさとを発展させることに力を発揮していきます。

高知県東部観光ビジョン策定委員会一同

地域を磨いて花を咲かそう！

高知東海岸100物語

高 知 県 東 部 観 光 ビ ジ ョ ン

発行日
2004年12月25日

企画・発行
高知県商工労働部観光振興課

編集・制作
株式会社アークデザイン研究所